

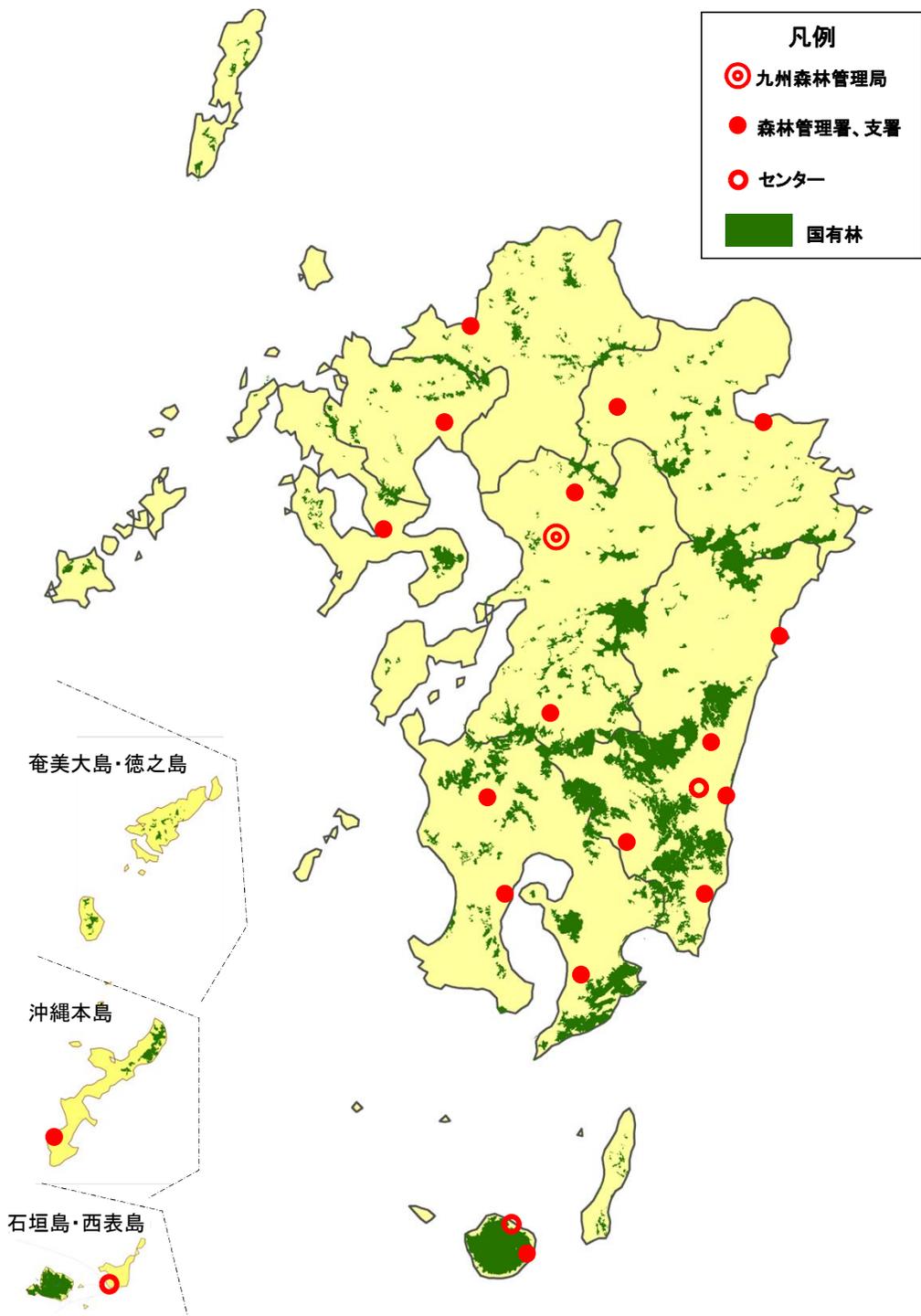
令和7年度 九州森林管理局の重点取組事項



九州森林管理局

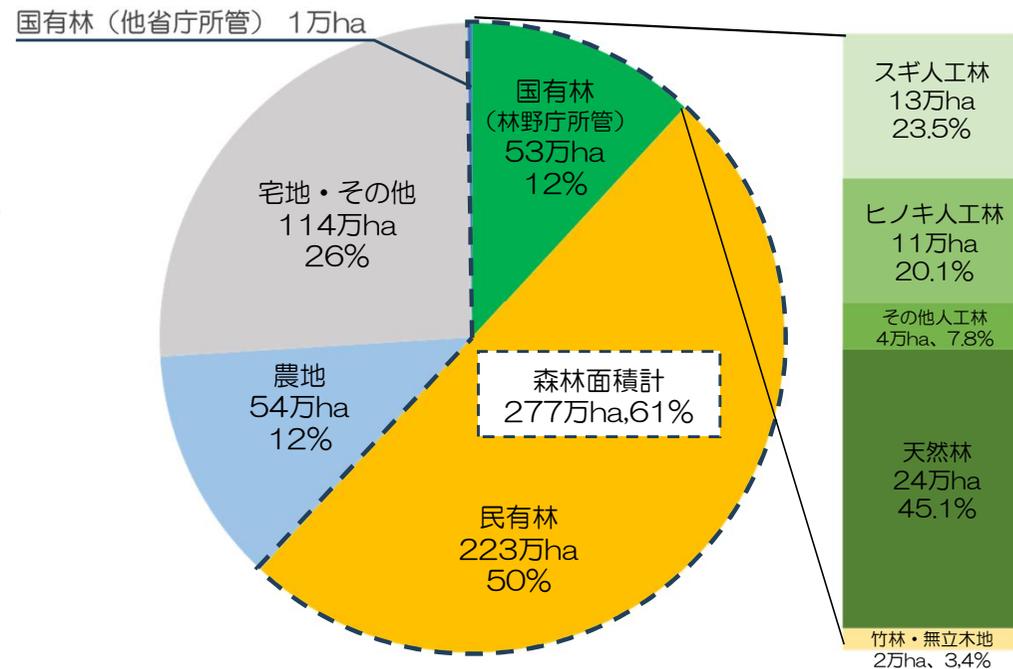


九州・沖縄における国有林の分布



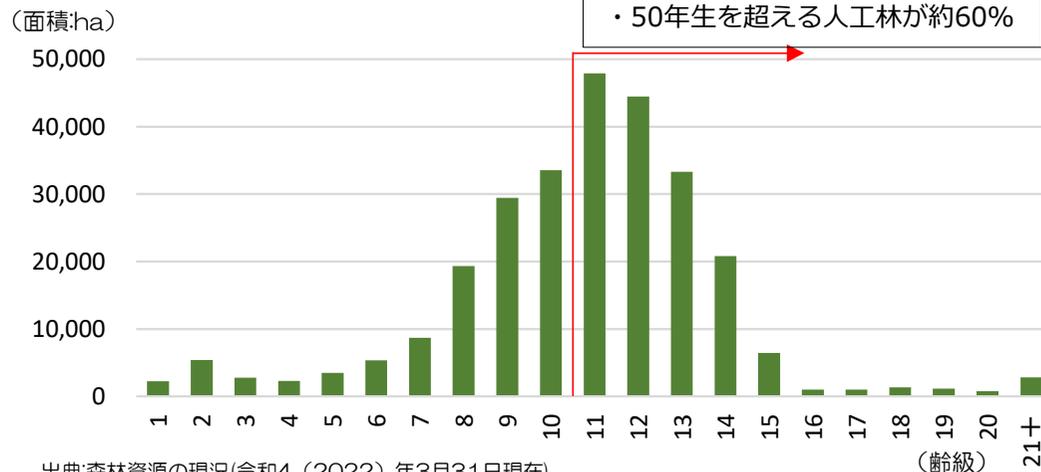
九州に占める国有林の割合

- 九州の国有林は森林面積の約2割を占める
- 国有林の人工林と天然林の割合はほぼ半々



出典：森林面積は「森林資源の現況」林野庁（令和4年（2022）年3月31日時点）
 農地面積は「令和5年耕地及び作付面積統計」農林水産省
 宅地・その他面積は「全国都道府県市町村別面積調」国土地理院（令和5年（2023）年10月1日時点）の各県面積の合計445万haから森林面積、農地面積を除いた面積

九州国有林の人工林の齢級構成



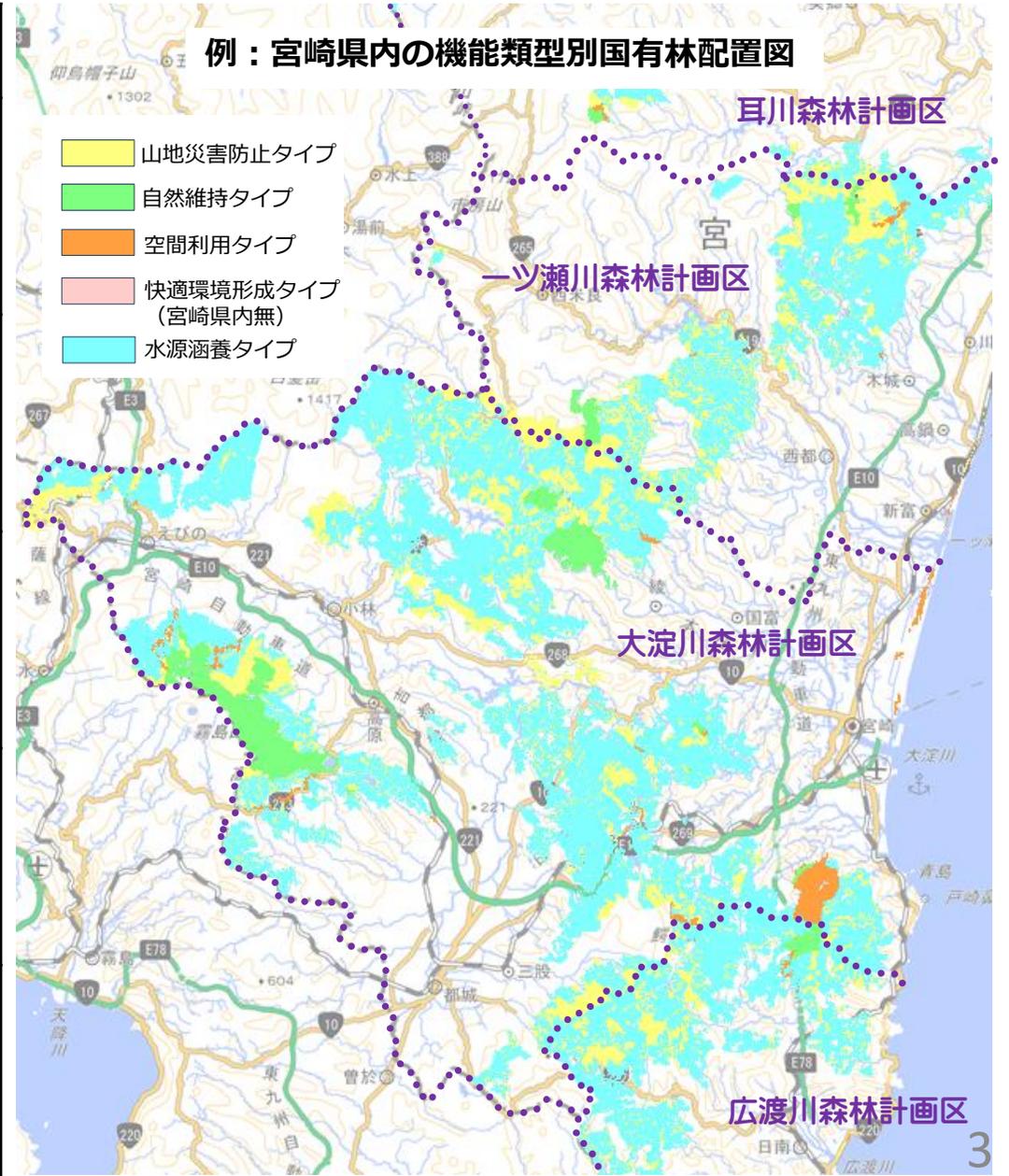
出典：森林資源の現況（令和4（2022）年3月31日現在）

（注）齢級は5年を一括りとした表現で、1齢級は1～5年生、2齢級は6～10年生の林分を表します。

重視すべき機能に応じた管理経営

九州森林管理局では、重視すべき森林の機能に応じ、国有林野を①山地災害防止タイプ、②自然維持タイプ、③森林空間利用タイプ、④快適環境形成タイプ、⑤水源涵養タイプの5タイプに区分し、区分ごとの管理経営の考え方に即し、必要な施業を実施。

区分の名称 (タイプ)	森づくりの考え方
山地災害防止タイプ 110,559ha (21%)	根や表土の保全、下層植生が発達した森林の維持  由布岳の北側 (大分署)
自然維持タイプ 87,749ha (17%)	良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の生育・生息に適した森林の維持  宮之浦岳 (屋久島署)
森林空間利用タイプ 14,760ha (3%)	保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林の維持・造成  菊池溪谷の溪流 (熊本署)
快適環境形成タイプ 1,085ha (0.2%)	防音又は大気浄化に有効な森林の維持  八代市妙見地区 (熊本南部署)
水源涵養タイプ 313,667ha(60%)	人工林の間伐や伐期の長期化、育成複層林への誘導等を推進し、森林資源の有効活用にも配慮 



期待される森林の機能

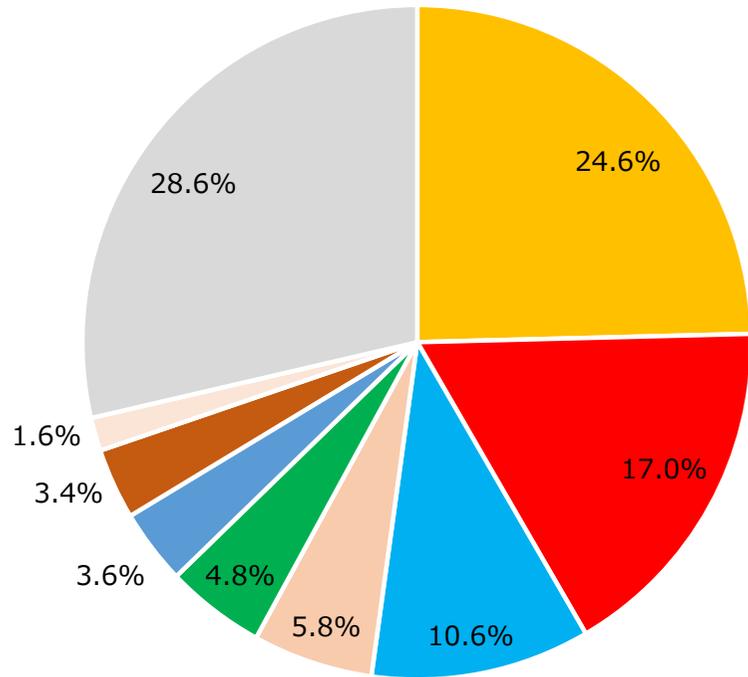
・令和7年1月末にSNSを活用したアンケート調査を実施（※九州・沖縄地域に在住する500名を対象）。

アンケート調査結果として、森林の役割について山地災害の防止や自然環境の保全等への期待や関心が高い一方で、森林の整備や木材の利用が森林の機能を向上させる取組であることはあまり知られていないことが窺われた。



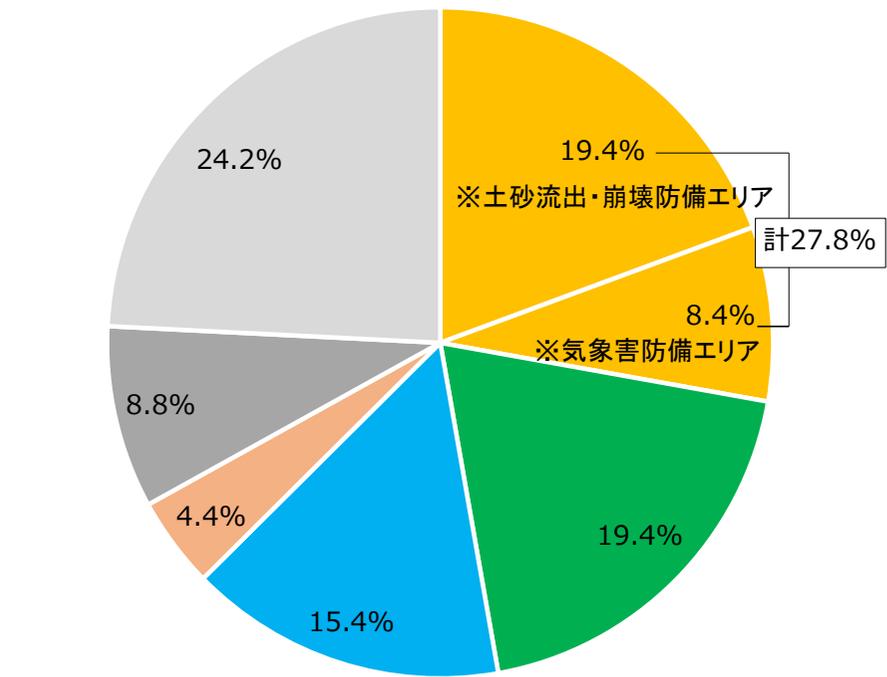
詳細は2次元バーコードで確認できます。

■ 森林に持つ機能の中で一番期待する機能



- 山崩れ、洪水などの災害を防止する山地災害防止・土壌保全機能
- 二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化を緩和する地球環境保全機能
- 水資源を蓄えたり、水質を改善する水源かん養機能
- 夏的气温低下、冬的气温上昇、木陰・大気浄化、騒音防止などをもたらす快適環境形成機能
- 貴重な野生動植物の生息・生育の場である生物多様性保全機能
- 住宅資材や紙の原料となる木材やきのこ、山菜等を生産する木材等生産機能
- 心身の癒しや安らぎの場をもたらす保健・レクリエーション機能
- 景観、学習・教育、芸術、伝統文化、地域の多様性維持などを指す文化機能
- 特になし

■ 九州森林管理局における森林タイプ別のうち、一番期待する森づくり



- 山地災害防止タイプ
- 自然維持タイプ
- 水源かん養タイプ
- 森林空間利用タイプ
- わからない
- 特になし

■ 水源かん養タイプの取組が、伐採や植栽を行い、水源涵養機能の維持・増進を図っていることを知っていたか。→**知っていた 28.6%**

■ 人工林を若返らせる（伐採し、植える）ことで、CO2の吸収量（地球温暖化対策）が維持・増進されることを知っていたか。→**知っていた 34.8%**

■ 伐採後に製品となった木材を家や家具等に使用することにより、CO2を固定できること（地球温暖化対策に寄与できること）を知っていたか。→**知っていた 30.2%**

○ 山地災害防止タイプの森林の管理経営

山地災害防止タイプの森林は次の2つに分けられる。

- ・土砂流出・崩壊防備エリア・・・土砂の流出・崩壊等の山地災害による人命・施設の被害の防備機能を発揮する森林。
- ・気象害防備エリア・・・風害、飛砂、潮害等の気象害による住居、産業活動に係る環境の悪化の防備機能を発揮する森林。

【土砂流出・崩壊防備エリア】

根系と下層植生の発達が良好で常に落葉層を保持した森林を維持し、必要に応じて治山施設等を整備。



宮崎県高原町（定木地区）



長崎県島原市（眉山地区）

【気象害防備エリア】

遮蔽能力と風害、飛砂、潮害等の気象害に対する抵抗性が高い樹種によって構成される森林を維持。



佐賀県唐津市（虹の松原）

地域の安全・安心の確保に向けて、治山ダムの計画的な設置や保安林整備等の事前防災・減災対策を実施。



治山ダムの設置による河川区域への土砂・流木の流出を抑制



流木捕捉式治山ダムの設置



保安林整備と筋工の設置による土壌の保全

台風や豪雨後の迅速な初動対応



ヘリコプターによる被災状況調査

○ 自然維持タイプの森林の管理経営

・原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、希少な野生動植物の保護など自然環境の保全に係る機能を発揮させるため、良好な自然環境を保持する森林を維持。

【保護林の種類】

○ 森林生態系保護地域（7箇所、53,887ha）

我が国の気候帯・森林帯を代表するような原生的な天然林を保護

（祖母山・傾山・大崩山周辺、綾、奄美群島、稲生岳周辺、屋久島、やんばる、西表島）



西表島森林生態系保護地域
（遠景）



綾森林生態系保護地域
（照葉大吊橋と保護地域の林相）

○ 生物群集保護地域（11箇所、17,262ha）

地域固有の生物群集を有する森林を保護（代表例：高隅山、霧島山等）



ブナの林相（高隅山）



ミヤマキリシマの群落（霧島山）

○ 希少個体群保護林

希少な野生生物の生育・生息に必要な森林を保護



ツシマヤマネコ



三ツ岩オビスギ遺伝子資源

【世界自然遺産の保護・管理】

屋久島世界自然遺産（平成5年登録）



縄文杉（鹿児島県屋久島町）

○屋久島湿原保全対策

花之江河では数十年で湿原の遷移が顕著化。侵食が進みつつある箇所では堰の設置による侵食防止対策等を関係行政機関等と連携して実施。



花之江河の湿原

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産

（令和3年登録）



特別天然記念物アマミノクロウサギ
（鹿児島県奄美大島及び徳之島）



天然記念物ヤンバルクイナ
（沖縄県沖縄島北部）



亜熱帯植物のマングローブ林
（沖縄県八重山諸島西表島）

【モニタリング調査】

世界自然遺産地域の森林生態系を適切に把握し、科学的なデータに基づいた順応的管理を行うための植生モニタリング調査等を実施。学識経験者等の意見を聴きながら効果的な遺産地域の保護・保全に活用。



植生モニタリング調査

○ 森林空間利用タイプの森林の管理経営

・レクリエーション、教育、文化機能を発揮する森林として、その利用の形態に応じた多様な森林を維持。



皿倉山からの眺望（福岡県）



桜の名所「お萩園」と金峰山（熊本県）



特別名勝「虹の松原」（佐賀県）



五ヶ瀬ハイランドスキー場（宮崎県）



雲仙岳の紅葉（長崎県）



久重夢大吊橋（大分県）



千尋の滝（鹿児島県）



マリユデユの滝（沖縄県）

五ヶ瀬のスキー場のオープンに向けた林道の復旧

- 令和4年9月の台風14号で宮崎県の実里町の五ヶ瀬ハイランドスキー場へのアクセス道である五ヶ瀬町の町道が被災したため営業を停止。
- 合わせて、管理のために必要な国有林の波帰林道も被災。
- 令和6年8月の台風10号により再度被災したが、応急復旧工事により、令和6年12月20日に3シーズンぶりにオープンし、令和7年3月9日に営業を終了。

波帰林道



災害発生後



応急復旧工事後



五ヶ瀬ハイランドスキー場のオープンセレモニー

○ 快適環境形成タイプの管理経営

・快適な居住・環境を形成する機能を発揮する森林として、防音又は大気浄化に有効な森林を維持。



福岡市高祖城国有林



八代市上宮国有林

○ 水源涵養^{かん}タイプの森林の管理経営

・水源涵養機能を発揮する森林として、人工林の間伐や伐期の長期化、育成複層林への誘導等を推進するとともに、森林資源の有効活用にも配慮。



一ツ瀬ダムに流れる水を蓄えている森林
(西都児湯署)



列状間伐を実施した人工林

伐採した立木は丸太にして有効活用



伐期を迎えた人工林の一部では育成複層伐も実施（伐った後は植栽を必ず実施）

【間伐の実施による浸透能・保水力の向上】



過密化し、水土保持機能が低下した森林

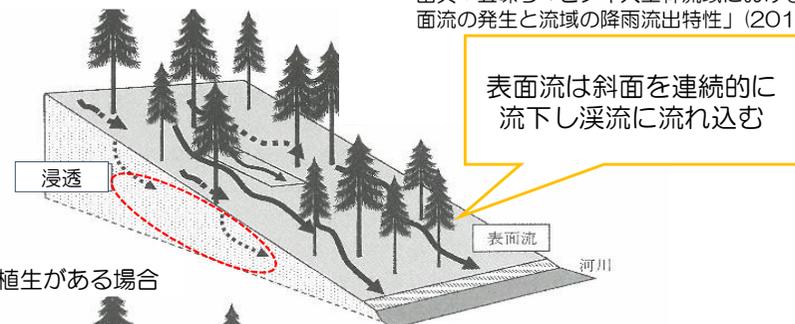
間伐の実施



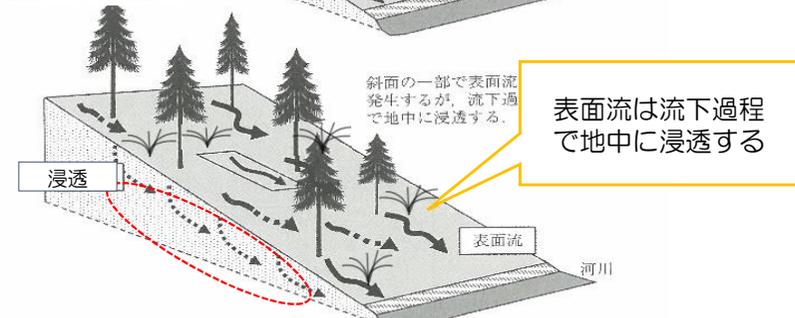
光環境が改善され、今後下層植生が回復

林床が裸地化している場合（荒廃ヒノキ林）

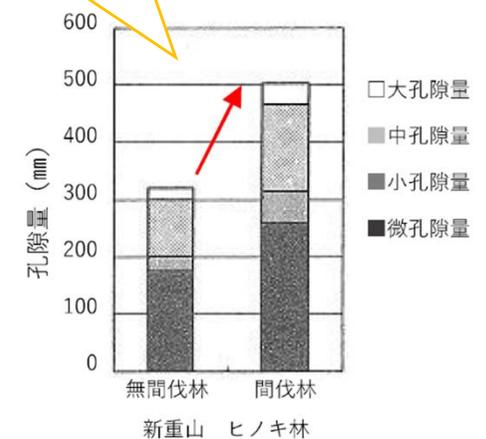
出典：五味ら「ヒノキ人工林流域における表面流の発生と流域の降雨流出特性」（2010）



森林植生がある場合



間伐により保水容量の増加



出典：服部ら「間伐林と無間伐林の保水容量の比較」（2001）

下層植生の回復により、森林土壌が保全されることで、浸透能が増加。また、落葉層や植生の根茎により流速が弱まり、浸透が促進。

森林吸収源対策・花粉発生源対策

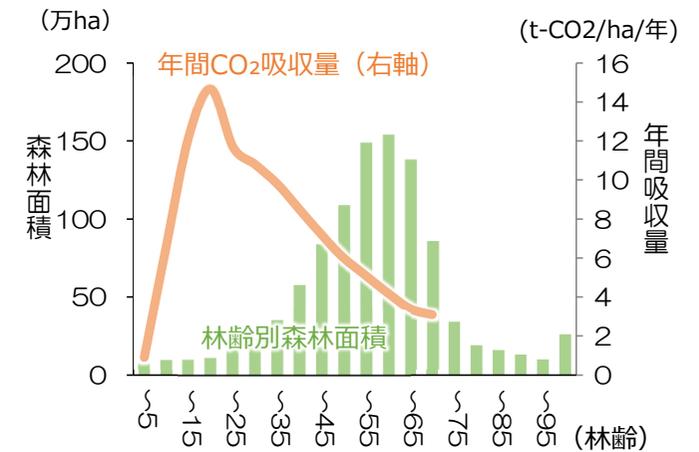
・2050年ネット・ゼロ※の実現に貢献するためには、間伐の着実な実施に加えて、「伐って、使って、植えて、育てる」という資源の循環利用を進めることが有効。(※温室効果ガスの排出量と吸収量を差し引き、ゼロにすること)

・花粉症対策初期集中パッケージ（令和5年10月11日花粉症に関する関係閣僚会議決定）を踏まえ、各県が指定した重点区域に準じた国有林において、スギ人工林の伐採や植替えを優先的に実施。

・主伐・主伐後の再造林については、持続的な木材供給や森林吸収量の確保に向けてエリートツリー等を活用しながら次世代の資源造成を推進するとともに、花粉の少ない苗木の積極的な活用による花粉発生源対策の加速化や、多様な森林の整備に向けて育成複層林への誘導を先導的に実施。



【人工林の林齢構成とCO2吸収量】



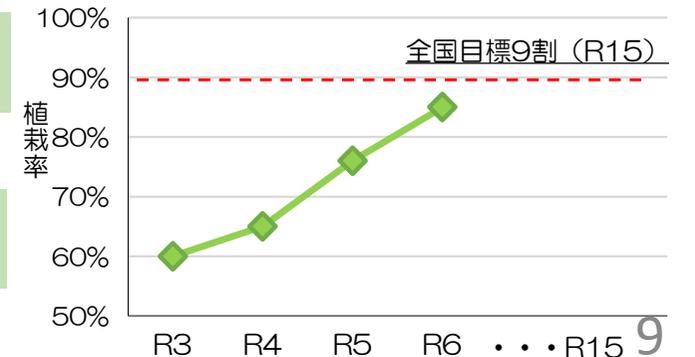
※林野庁「森林資源の現況」(R4.3.31)
J-クレジット制度運営委員会・第2回森林小委員会資料を加工

【スギ人工林伐採の加速化】

スギ人工林伐採面積 (全国)
5万ha/年→7万ha/年 (R15)

九州森林管理局においても
スギ人工林の伐採面積の増加に
取り組む

【九州森林管理局に おける花粉の少ない苗木の植栽率】

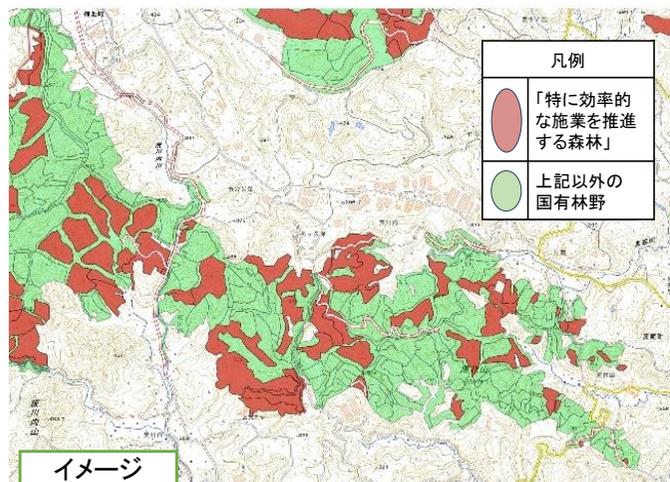


○ 森林・林業施策全体の推進への貢献①（令和7年度重点取組事項）

- ・持続的な林業生産活動に適した人工林を「特に効率的な施業を推進する森林」に設定し、二酸化炭素の吸収量の確保や花粉発生源対策にも資する主伐及び主伐後の再造林に取り組む。その際、樹齢の異なる樹木で構成される複層林へ誘導する、面的複層林施業について先導的に実施。
- ・また、初期成長に優れ花粉の少ないスギ特定苗木の生産拡大への支援やシカ等被害拡大防止にも取り組む。

【特に効率的な施業を推進する森林】

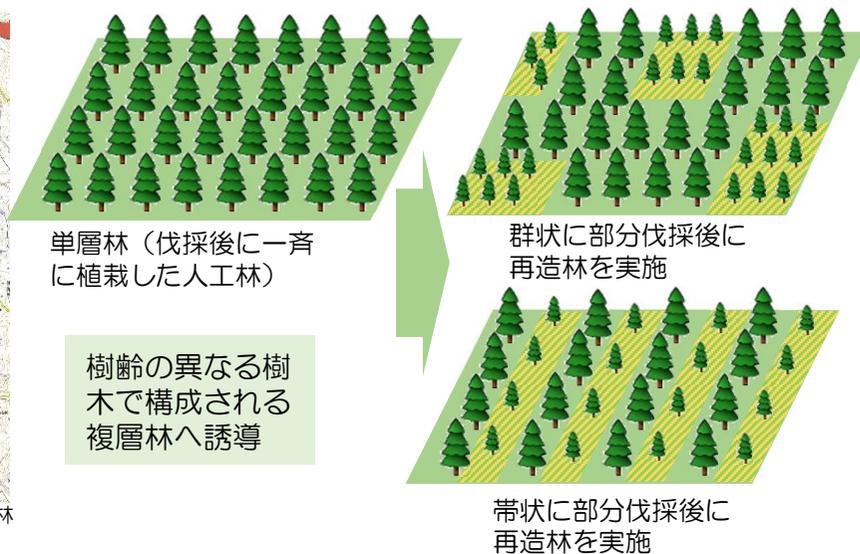
持続的な林業生産活動に適した自然的・社会的条件が良い人工林を、「特に効率的な施業を推進する森林」に設定し、主伐及び主伐後の再造林を実施。



※自然的条件が良い森林：土壌が肥沃で木が育ちやすい、傾斜が緩い森林
 ※社会的条件が良い森林：林道からの距離が近い森林

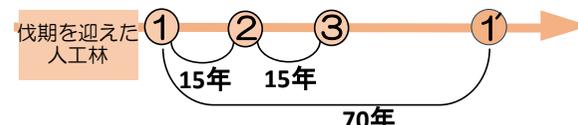
【育成複層林への誘導】

水源涵養等の公益的機能と木材等生産機能の発揮を同時に期待する森林では、自然条件等に応じ、帯状又は群状の伐採と植栽による確実な更新により効率的に育成複層林に誘導。



面的複層林施業実施箇所（熊本県人吉市）

- ・2.5ha以下の伐区を設定し、全域を3回に分け分散させて伐採（隣接する伐区は50m以上の間隔を確保）
- ・2回目、3回目の伐採時期は少なくとも15年の期間を確保



Topic:スギ特定苗木の安定需給協定締結

- ・育林の省力化・低コスト化及び花粉発生源対策を加速化するため、初期成長にすぐれ、花粉の少ない特定苗木の安定的な確保及び生産拡大の支援を目的に、増産に必要な穂木を国有林内から提供販売。

- ・当該穂木から生産されたスギ特定苗木を安定的に需給する協定を公募に基づき選定された3者と令和6年11月15日に締結。



【鳥獣被害対策】

シカ等被害拡大に対応するため、地元市町村・猟友会等との協定締結等による捕獲、植生保護柵の設置等の取組を実施。



大分県佐伯市宇目地区においてシカ被害対策協定を締結（令和7年2月5日）



小林式捕獲罠設置の研修



保護林等への植生保護柵の設置

森林・林業施策全体の推進への貢献②（令和7年度重点取組事項）

・国有林のもつ組織・技術力・資源を活用して民有林に係る施策を支え、森林・林業施策全体の推進に貢献するため、造林の低コスト化に係る取組（低密度植栽・長方形植・筋刈り）を引き続き実施するとともに、現地検討会を開催し、民有林関係者への普及・定着に取り組む。

○林業コストの収支計算（1ha）（全国ベース）

林野庁「林業経営と林業構造の要望②」（林政審議会（R2.11.16）資料3）をもとに作成。
値は施業地1ha単位の試算



【下刈りの低減と全刈から一部刈らない筋刈りへ移行】

下刈りの労力を低減するため、全刈から筋刈を実施することにより、下刈りの軽労化、省力化を図る。あわせて、下刈り回数の低減により低コスト化も実施。

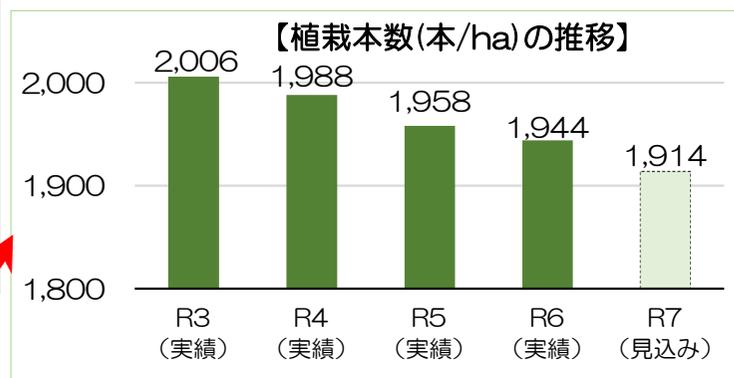
	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 予定
筋刈の割合	11%	16%	31%	38%
下刈り回数	4.3回	4.1回	3.9回	3.8回



筋刈り実施後

【低密度植栽と長方形植の実施】

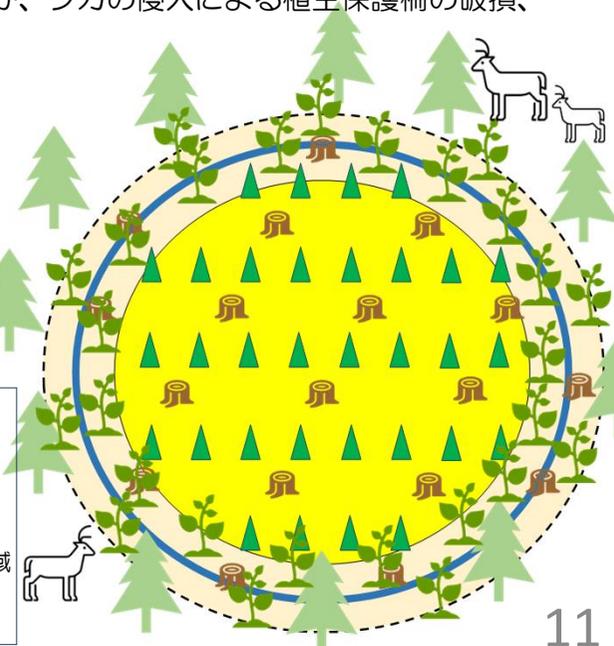
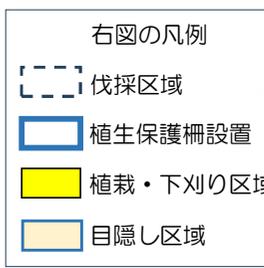
- ・従来（3,000本/ha）より少ない植栽本数で、軽労化・省力化・コスト低減を図る。
- ・あわせて、植栽方法も従来の正方形植から長方形植にすることで植えるための歩行距離を縮減することができる。



【下刈り方法を工夫したシカ対策 - 目隠造林の実施】

- ・シカ被害を防ぐため植生保護柵を設置しているが、シカの侵入による植生保護柵の破損、補修や定期的な見回りにおける労力や費用が課題。
- ・そのため、シカネットの内縁（造林木側）を約5m刈り残し、草本類を生長させることでシカの視点からネット奥を目隠しし、シカの侵入を防げないかを実証する。

・植生保護柵の縮減
・植栽・下刈り面積の減少 } 造林コストの低減



【多岐内容にわたる現地検討会の開催】

- ・森林の公益的機能の高度発揮や林業の低コスト化等に資する技術の普及・定着を目的に各地で開催。

・現地検討会の開催情報は九州森林管理局のホームページで随時更新。
（右の二次元バーコードで確認できます。）



低コスト造林に関する現地検討会

森林・林業施策全体の推進への貢献③（令和7年度重点取組事項）

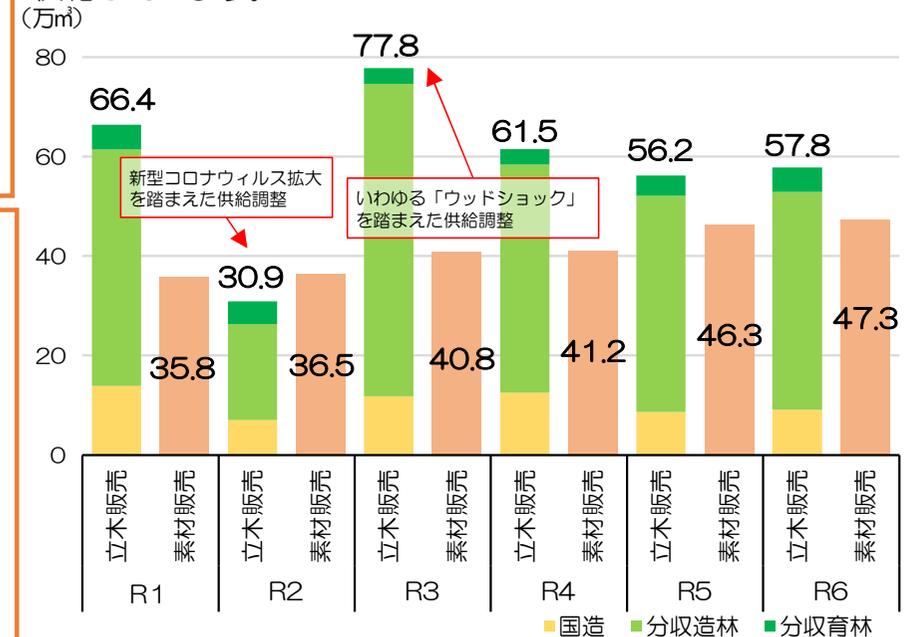
- 九州森林管理局では、九州全体の国産材供給量の1割強を安定的に供給しており、適切な施業の結果得られる木材の持続的・安定的な供給を通じて、地域における国産材の安定供給体制の構築や国産材供給量の拡大に貢献するとともに、国有林材の供給調整を必要に応じ実施。
- 素材（丸太）の販売に当たっては、国産材の需要の拡大、加工・流通の合理化等に取り組む製材工場等と協定を締結して丸太を直送する「システム販売」に引き続き取り組む。
- また、民有林の立木の取引価格に形成に資するよう国有林の立木販売結果を公表。

【国有林材の販売の流れ】



【森林資源の有効活用（国有林材の安定供給）】

九州全体の1割強を占める木材を九州森林管理局から供給しています。



注）分収造林と分収育林は民収分を含めた総数量

【システム販売（R6実績）】

販売量(R6)	
素材販売	47.3万m³
システム販売	46.2万m³ (98%)

【立木販売結果の公表】

民有林の立木の取引価格の形成に資する取組として、国有林の立木販売結果を公表。
（右の2次元バーコードで確認できます。）



立木販売



森林・林業施策全体の推進への貢献④（令和7年度重点取組事項）

- ・近年頻発する豪雨等では、山腹崩壊等が多数発生しており、早期の復旧・復興に取り組むとともに、ICT施工を活用。
- ・倒伏した弥生杉の森林環境教育への活用や綾の照葉樹林プロジェクトのような取組を展開し、森林の整備・保全活動を実施。
- ・市町村職員の研修への参加受け入れなど森林・林業行政に対する技術的な支援を実施。

【治山事業におけるICT活用工事の取組】

令和6年台風10号による大雨等の影響により大分自動車道に土砂が流出。早期復旧が求められる中、現場が急斜面で不安定であったため、工期短縮や作業員の省力化及び安全確保を図る観点から、高所掘削機械（RCM）を用いたICT施工に取り組んでいる。



左下写真：操縦席に設置されたモニターで掘削面の勾配等を確認。
 右上下写真：高所掘削機械（RCM）を使用。法面上部のアンカーと機体をワイヤーにより接続し、斜面での作業を可能としている。

【緑の守り手】



緑の守り手認定授与式

山林の現場で活動する森林土木工事の事業者は土木工事だけではなく、平常時には地域のボランティア活動を、災害時に現場最前線で地域社会の安全・安心の確保を担うなど地域を支える重要な担い手。

事業者の取組を広く認知してもらうため、「緑の守り手認定事業者」として「見える化」。

倒伏した弥生杉の森林環境教育への活用



- ・令和6年台風10号の影響により屋久島白谷雲水峡の「弥生杉」が根元部から折損・倒伏。
- ・有識者等による検討会を設置し、基本的にそのままの状態を保存し、森林環境教育の場や観光資源として活用する方針を決定。
- ・方針を踏まえ、遊歩道の整備や木製デッキ、看板を設置。

綾の照葉樹林プロジェクト 協定締結20周年



- ・「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）」では照葉樹林の保護・復元や森林環境教育活動等を通じた地域づくりを実施。
- ・20周年を迎える令和7年度は記念事業を通じて地域内外にプロジェクトの取組を重点的に発信。

森林・林業に関する研修への参加受け入れ

下の3つの研修に市町村職員の参加を受け入れ



森林の見方研修（基礎研修A）

研修内容：森林の見方、森林施策と植生、森林のGIS等の活用 等

森林の育成研修（基礎研修B）

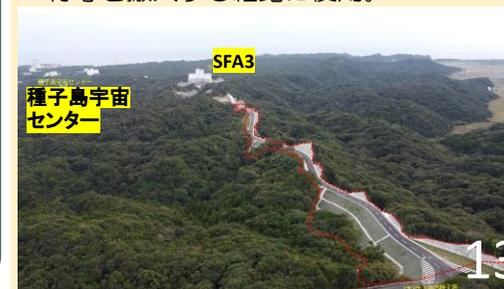
研修内容：造林の体系、森林被害の種類と対応、治山事業の概要 等

無人航空機活用研修

研修内容：森林・林業分野におけるドローン活用方法、操縦実習 等

我が国の宇宙開発事業に貢献する国有林野の活用

- JAXAの種子島宇宙センターの第3衛星フェアリング組立棟（SFA3）への資材搬入に係る通行制限等を軽減するため、SFAへ直結する道路敷（通称：宇宙林道）を令和6年度に売却（SFA3敷は令和2年度に売却）。
- 令和7年2月2日に打ち上げられた「みちびき6号機」（準天頂衛星）の機材等を搬入する経路に使用。



令和7年度 主要事業量（計画）

項目	事業量等 (カッコ内は前年度計画)
森林の造成	
植付	13百ha (13百ha)
下刈	40百ha (40百ha)
除伐	7百ha (4百ha)
保育間伐	56百ha (65百ha)
林道新設等	30路線 (33路線)
木材の販売	
立木 (注1)	508千 ³ m (525千 ³ m) <211千 ³ m> (注2)
丸太	488千 ³ m (460千 ³ m)

項目	事業量等 (カッコ内は前年度計画)
森林整備事業費 ※金額は当年度+前年度 補正の合計	141億円 (130億円)
治山事業費 ※金額は当年度+前年度 補正の合計	52億円 (49億円)
国有林野内	34億円 (33億円)
私有林直轄	18億円 (17億円)

～各種パンフレットで九州森林管理局の取組を紹介～



九州森林管理局 企画調整課

熊本市西区京町本丁2-7
TEL : 096-328-3642



(注1) 立木販売は分収造林の民収分、分収育林を除く。

(注2) <>書きは令和6年度実績(速報値)。